

2026 ズバリ! 的中



世界史

関西学院大学

マルティンルターに関する問題が的中。
正答になる選択肢も同じ。

入試問題

2月3日実施 全学部
大問II ⑥

〔II〕 次の文中の□に最も適当な語を語群から選び、また下線部に関する問いに答え、最も適当な記号1つをマークしなさい。

14世紀から15世紀にかけて深刻な①社会的危機を経験した西ヨーロッパでは、危機の時代ならではの新たな文化創造の営みが始まった。それがルネサンスである。②フィレンツェなどのイタリア都市で始まったこの運動は、アルプスを越えてヨーロッパ北方にも広がった。商業や毛織物業で栄えた③ネーデルラントがその中心舞台となった。

ルネサンス期には、④文芸と並んで⑤科学や技術にも新たな展開が見られた。さらにルネサンス的な批判精神は信仰の世界をも席卷し、総称して宗教改革と呼ばれる一連の教会刷新運動が展開された。ドイツの⑥マルティン＝ルターや、スイスの□イで改革に着手したカルヴァンらの試みがその中核をなす。とはいえ、オクスフォード大学教授の□ロやペーメン（ボヘミア）のフスラ、異端とされた人々が先駆的に聖書への回帰を唱えていたこと、さらに宗教改革に対抗するイエズス会によるカトリック刷新運動も重要である。

〔語群〕

- イ a. ジュネーブ b. バーゼル c. チューリヒ d. アウクスブルク
ロ a. ロジャー＝ベーコン b. ウィクリフ c. アンセルムス d. アベラール

⑥マルティン＝ルターに関する記述として、誤りを含むものはどれか。

- a. ヴィッテンベルク大学の神学教授であった。
b. 教皇レオ10世による贖宥状（免罪符）の販売許可を批判した。
c. 選帝侯であるプロイセン王フリードリヒの保護を受けた。
d. ドイツ農民戦争の指導者ミュンツァーらの急進化を批判し、弾圧を主張した。

河合塾

夏期講習 関関同立大世界史
第2講 ①番

第2講 欧米史の重要テーマ (II)

B 次の文中の□に最も適当な語を語群から選び、また下線部に関する問いに答えなさい。

宗教改革は16世紀にドイツで始まり、その後ヨーロッパ各地に大きな影響を及ぼしていった。教皇□イがサン＝ピエトロ大聖堂の改築資金にあてる贖宥状（免罪符）の販売を認めると、それに対して①マルティン＝ルターは1517年に「九十五ヶ条の論題」を公表し教皇や贖宥状を批判した。ルターの影響力はドイツの社会や政治にまで及んだ。□ロでは、ツヴィングリが改革をすすめて万人司祭説を唱えた。また、②カルヴァンは魂が救われるか否かはあらかじめ神によって定められており、人は神から与えられた職業に禁欲的に励むべきであると説いた。イギリスでは、国王の主導でカトリック教会から離脱する動きが起り、③イギリス国教会が成立した。これらのカトリック教会から分離し教皇権を認めない宗派は④プロテスタント（新教）と称された。他方、旧教と呼ばれたカトリック教会でも16世紀半ばから⑤改革の動きが活発化し、勢力回復に向けて布教活動もさかに行われた。こうした新旧両派の対立が背景となり、近世ヨーロッパの各地で⑥ユグノー戦争のような宗教戦争が起こったのである。

〔語群〕

- イ a. アレクサンデル6世 b. レオ10世 c. ユリウス2世
 d. ピウス7世
ロ a. ロンドン b. カンタベリー c. ウィーン d. チューリヒ

〔問 い〕

- ① マルティン＝ルターに関する記述として、誤りを含むものはどれか。
a. ヴィッテンベルク大学の神学教授であった。
b. 信仰義認説を主張した。
c. ハノーヴァー選帝侯フリードリヒによる保護を受けた。
d. 『キリスト者の自由』を著した。